

事前評価個表

整理番号	10
------	----

地域（地区）名	<small>ちゅうぶさんかく</small> 中部山岳	事業名	森林環境保全整備事業
計画策定主体	長野県	対象市町村	<small>まつもと</small> 松本市ほか 12 市町村
事業実施期間	R3 年度～R7 年度（5 年間）	事業実施主体	県、市町村、森林組合、森林所有者等

事業の概要・目的	<p>本地区は、長野県の北西部に位置し、松本市他 3 市 1 町 8 村を包括する。</p> <p>本地区の森林面積は 237 千 ha（森林率 80%）、対象民有林は 136 千 ha（森林全体の 57%）、うちカラマツを主体とする人工林は 57 千 ha（人工林率 44%）と人工林率は県平均（50%）より低く、天然林が多い地域となっている。</p> <p>戦後の拡大造林等により、人工林の齢級構成では XI～XIII 齢級が全体の 58%を占めており、森林資源が充実する中、健全な森林を育成していくうえでも間伐等の森林整備が必要となっている。</p> <p>また、森林資源が充実している中で、若齢林が少ない状況であることから、木材の有効活用及び森林のもつ水源涵養等の公益的機能の高度発揮のため、主伐の促進による生産性の向上や一貫作業システム等の導入による再生林の低コスト化等により適切な更新と確実な再生林を行い、齢級構成の平準化が必要となっている。</p> <p>本地区では松くい虫被害が県内の被害量の半数近くを占める状況であり、アカマツ林の保全を図るため、被害木の早期発見と早期伐倒駆除のほか、薬剤散布や樹種転換等の予防対策を総合的に組み合わせ、被害の拡大防止に努める必要がある。</p> <p>このため、中部山岳地域森林環境保全整備事業計画を作成し、これに基づき、意欲と実行力を有する林業事業者等による計画的な森林施業の実施を促進し、森林のもつ水源涵養等の維持増進を図る必要があることから、本計画に基づき、本事業により、本地区の課題に即した再生林や搬出間伐等の森林整備を計画的に実施する。</p>
事業内容・事業費	<p>森林整備：6,100ha</p> <p style="padding-left: 40px;">人工造林、下刈り、枝打ち、除伐、保育間伐、間伐等</p> <p>総事業費：2,381,518 千円（税抜き 2,165,016 千円）</p>
費用便益分析結果	<p>$B/C = 6.90$</p> <p>（総便益（B）=18,767,607 千円、総費用（C）=2,721,175 千円）</p>
評価結果	<p>必要性：森林のもつ水源涵養等の公益的機能の高度発揮のため、間伐や適正な再生林等の森林整備が求められており、事業の必要性が認められる。</p> <p>効率性：費用便益分析の結果から十分な効率性が認められる。</p> <p>有効性：計画的な森林整備の効率化を推進し、森林資源の有効活用を図るための事業であり、有効性が認められる。</p>

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

都道府県名：長野県

地域(地区)名：中部山岳

(単位：千円)

大 区 分	中 区 分	評価額	備 考
水源涵養 ^{かん} 便益	洪水防止便益	4,284,339	
	流域貯水便益	1,659,205	
	水質浄化便益	6,161,204	
山地保全便益	土砂流出防止便益	5,245,574	
環境保全便益	炭素固定便益	218,618	
木材生産等便益	木材生産確保・増進便益	1,198,667	
総 便 益 (B)		18,767,607	
総 費 用 (C)		2,721,175	
費用便益比	$B \div C = \frac{18,767,607}{2,721,175} = 6.90$		

森林環境保全整備事業 中部山岳流域(長野県) 概要図

